

令和5年度第1回審査会での質問と回答 (LEGOLAND JAPAN)

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者等の回答
1	<p>名古屋市で解体されるということですが、その部分は別に審査会で審査されて、大気汚染や振動などは問題ないという報告が出ているのでしょうか。</p>	<p>今回の解体工事に関しましては、特に調査などを行ったということは聞いておりません。</p> <p>解体工事はこの図書には載ってこないですが、名古屋市がやっておりますので、名古屋市が責任を持って騒音・振動など環境法令に基づいて適正にやっているという次第です。</p>	<p>左記、回答の通り。</p>
2	<p>PFIというのは、いつ契約が結ばれて、どういう経緯で議論が進められたのかという背景を教えてください。</p>	<p>PFI事業がどういうふうに進んだかという経緯につきましては、名古屋市の所管の部局に確認して、後日回答いたします。</p>	<p>当初（平成29年6月実施方針公表）、旧第1展示館の解体工事はPFI事業には含まれておらず、その後の方針の変更の中で当該工事が事業内容に含まれました。</p> <p>事業者との契約については、平成31年1月23日に仮契約を締結し、同年3月6日の議決を持って本契約としております。</p>

※本市観光文化交流局が回答

令和5年度第1回審査会での質問と回答（中央新幹線 品川・名古屋間）

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の回答
1	騒音・振動 報告書 61 ページと 71 ページの騒音と振動の苦情の表は時系列に沿ったものでしょうか。騒音苦情の表は、騒音対策を追加したにもかかわらず、その後に商業施設や宿泊施設からクレームが入ったと読めばよいのでしょうか。	上から順に時系列と聞いていますが、具体的な工事の内容、苦情があった場所の詳細は聞いておりませんので、事業者に確認します。	時系列に沿ったものではなく、お申し出いただいた方や主な対処方法で分類して記載しております。 騒音・振動の対策は、作業箇所、作業内容に応じて適宜実施するとともに、苦情をいただいた方に対しては作業内容や対策等を丁寧にご説明しております。 なお、騒音・振動に対して細心の注意を払って作業を進める中で、既設地下構造物の撤去等やむを得ない作業時には、複数箇所から苦情をいただくこともあります。その都度丁寧にご説明をし、ご理解をいただきながら作業を進めております。

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の回答
2	<p>地下水・地盤沈下</p> <p>地下水位と地盤沈下の調査地点の数や位置というのは、事業者が今回の調査で設定したのか、当初の計画通りの場所なのかどちらなのでしょう。</p> <p>地下水位の調査場所が詳しく書かれていないので、地下水位を測っている地点と地盤沈下の調査地点がどれくらい近い場所なのか、そもそもこの場所をどうやって選定したのかというのがわからないので、今後継続的に測定するのであれば、地下水位と地盤沈下の調査を近い位置でやって欲しい。</p>	<p>前回の地盤沈下の測量標と観測井の場所については、西工区では位置は少しずれておりますが概ね一緒でございます。中央東工区はタワーズなどのビル群の傍のほぼ同じような場所で行っております。東工区は、少し離れているところで測定をしています。</p>	<p>地下水位及び地盤沈下の調査地点は各工事の保全計画書で定めており、計画通りに継続して測定を行っております。なお測定は、地下工事の進捗に合わせて適切な時期・位置において実施しております。</p> <p>(参考：名古屋駅の調査地点を添付)</p> <p>調査地点は、工事の影響を適切に把握できる箇所のうち、用地条件や工事条件を考慮したうえで、できるだけ近接して継続的に測定ができる地点を選定しております。</p> <p>なお、工事着手前からの影響を適切に把握するためには、調査地点は可能な限り変更せず継続的に測定を行うことが望ましいと考えており、調査地点の変更は考えておりません。</p>
3	<p>全般・地下水・地盤沈下</p> <p>工区の場所、地下水位・地盤沈下の調査地点は口頭の説明だとわかりにくいので、事業者の方でわかりやすい図を作成してほしい。</p>	<p>ご意見は事業者に伝えさせていただきます。</p>	<p>調査地点は、各工事の保全計画書の中で詳細を記載しておりますが、ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>

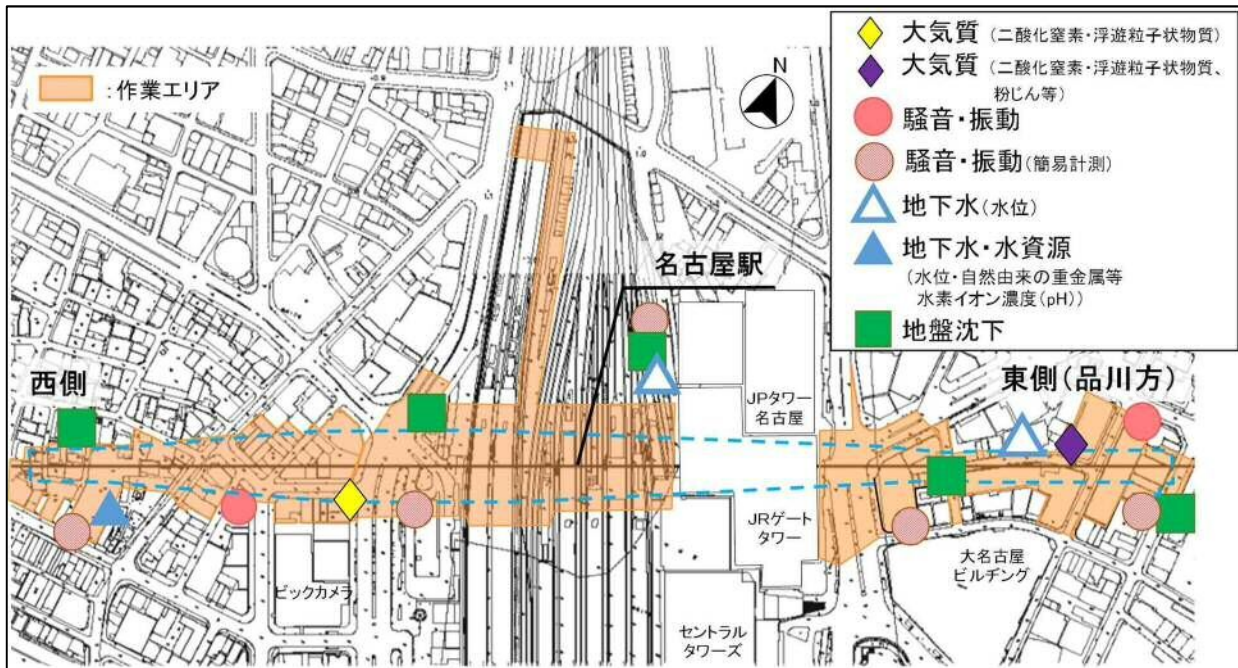
	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の回答
4	<p>報告書76ページの浅い方の井戸の水位ですが、単位がメートルなので1メートル以上の変動があるように見受けられますが、単位はメートルですか。</p> <p>浅層で1メートルも水位が上下するということは、すごく水が抜けているということではないのですか。こんなに水が抜けていて大丈夫ですかという感じがします。</p> <p>例えば、小牧の湿地群とかそういったところを通っている時にもメートルの単位で出すものでしょうか。</p>	<p>浅層はわりと雨の量で影響を受けて、結構変動が激しくなるものと思っています。名古屋市内でも、浅層の観測井戸で測っている場所があるのですが、例えば7月など雨が多く降る時期は、浅層の地下水位は結構高くなりやすいというイメージがあったので、変動が大きいのもあながち間違いではないと思うのですが、そのあたりは事業者の確認をいたします。</p>	<p>単位はメートルで、小数点以下第2位まで記載しております。</p> <p>工事前の計測においても、浅層地下水位で1mを超える変動がございました。</p>
5	<p>取っているところの地層構成が分からないのではっきり言えませんが、すごく砂が卓越しているような場所であれば、そういう傾向があるかもしれません。例えばこの浅層の場所が地中壁工事をしている付近で、工事の影響があったのかと思ったのですが、やはり地層構成を見ないと何とも言えないので、参考として名古屋市や県で測定しているようなデータと比較していただくのもいいのかと思いました。</p>	<p>ご意見は事業者に伝えさせていただきます。</p>	<p>地下水4での回答のとおり、当社の工事前の計測結果と本書の計測結果とを比較して大きな差異がないことを確認しております。</p>

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の回答
6	地下水	<p>地下水水位の変動が、降雨と関係あるならば降水量も出していただければと思います。</p>	<p>ご意見は事業者に伝えさせていただきます。</p> <p>地下水4での回答のとおり、当社の工事前の計測結果と本書の計測結果とを比較して大きな差異がないことを確認しているため、降水量との比較は記載しておりません。今後、大きな変動が確認された場合には降水量との比較も検討いたします。</p>
7	水資源	<p>報告書91ページで、定量下限値未満を示す数値が異なっているのは何故なのか気になりました。これは同じ分析機関でやっているものではなく、調査日ごとや試料ごとにより測定が違うのでしょうか。一応基準内なので問題ないと思うのですが、数字が気になったので質問させていただきました。安定して測定できているのかと疑問に思っています。</p>	<p>内容について事業者を確認いたします。</p> <p>項目によっても時期によっても変わっているところがありますので、分析をどのように委託しているかなど事業者を確認いたします。</p> <p>水資源調査は、各調査地点を請けもつ施工業者が実施しており、施工業者ごとに委託する分析機関が異なるため、計測機器等の違いによって定量下限が異なります。いずれにしても、基準値に対して余裕をもった精度で計測しております。</p>
8	水資源	<p>報告書91ページの水資源の結果ですが、02地点と03地点で、数値自体は低いものの未検出から検出になったり、数値が微増しているのが気になります。</p> <p>工事前の値に比べてこの調査結果は増加していると捉えるのか、pHの影響によるものと捉えるのかを確認いただきたいと思います。</p>	<p>3年分しか結果がないのでたまたま増えているだけかもしれませんので、確認させていただきます。</p> <p>本書における調査期間の結果としては、02地点（浅層）・03地点（浅層・深層）でふっ素が微増しておりますが、いずれも本書以前の測定値と比べても大きな変動はございません。また、各検出量は基準値内であり、問題ないと考えます。</p>

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の回答
9	水資源 そもそも工事前が検出されてないという話だと、話が変わってきてしまいます。測っている場所での工事がどのタイミングかを考えた上で、工事開始のタイミングのものと比較して、この評価が妥当なのかどうかを確認していただきたいと思います。	基準値以内でありますので問題ないとさせていただきますが、事業者に確認いたします。	01 地点、02 地点、03 地点全ての工事前の計測においても、本書に記載のカドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素は今回同様に基準値内ながら検出されており、そこから大きな変動はございません。従いまして、問題ないと考えております。
10	沈下量の計測結果は、沈下を正にするなら隆起は負にするような形にさせていただきたい。	ご意見は事業者に伝えさせていただきます。	沈下・隆起を問わず、周辺への影響を確認するため、絶対値にて表記しておりますが、ご意見を踏まえ、今後は隆起を正、沈下を負とし、より分かりやすい記載に努めます。
11	地盤沈下 地盤沈下のグラフは計測値に対して縦軸が大きく、ほとんど意味を成してないグラフなので、変動を見たいのであればもう少し妥当なグラフにさせていただきたい。例えば、地点が近いのであればその3地点を一つのグラフに載せれば、それぞれの地点の関係が見えてくると思いますので、ぜひ事業者伝えていただきたい。	ご意見は事業者に伝えさせていただきます。	周辺への影響の程度を視覚的に示すためグラフで示しており、縦軸のレンジは適切と考えておりますが、ご意見は今後の参考とさせていただきます。 なお、各地点は離れており、地点によって地盤高が異なりますので、1つのグラフに纏めることは考えておりません。

	質問、意見の概要	審査会での事務局の回答	事業者の回答
12	<p>廃プラスチックと紙くずと木くずを見てみると、廃プラスチックが72%しか再資源化されておらず、183 トンも廃棄が出ているので、もう少し再利用できるよう考えてほしい。</p>	<p>廃プラスチックは累計が658 トンで再資源化量は475 トンということで、再資源化率が72%なので、もう少し再資源化率を高めるように事業者には伝えさせていただきま</p>	<p>今後もより一層再資源化率を高められるよう、努めて参ります。</p> <p>なお、搬出先の間処理施設が公称している、他事業も含めた処理施設全体の再資源化率を使用することを基本としております。</p>
13	<p>報告書 117 ページの資源化のところ、資源化率が工事間利用されたものと単純に再資源化したものの合計になっているという話でしたので、実質的に新規で投入した量が工事内流用したものによって変動すると思うのです。そこがどうなっているのかがこれでは見えないので確認いただければと思います。</p> <p>もともと工事間利用されているものをなるべく全部ここで使って、残りが再資源化になっているのか、基本的には全部再資源化して、工事間利用で使わずに新規のものを導入しようとしているのか、前の経緯を知らないのだからこれだけ見るとそれが気になります。</p>	<p>事業者を確認させていただきます。</p>	<p>工事現場で発生する建設廃棄物のうち、工事間利用できるものは限定的であり、基本的には中間処理施設に搬出しております。そのため、再資源化率には工事間利用は考慮されておりません。</p> <p>今後も、引き続き工事現場内において確実な減量化を図ると共に、全体的な再資源化率をできるだけ向上するよう、取り組みを進めて参ります。</p>

「中央新幹線名古屋駅新設（東工区・東山線工区・中央東工区・中央西工区・西工区）工事における環境保全について」（令和3年6月24日更新）より一部抜粋



※工事施工ヤードでの騒音・振動（簡易計測）については、日々の計測を実施する。
 ※現地の状況等により、調査地点等が変更となる場合がある。

図 4-1 条例に基づく事後調査、及びモニタリング地点（工事施工ヤード）